

飯田市歴史研究所

〒395-0002

長野県飯田市上郷飯沼3145

電話 0265-53-4670

ファクシミリ 0265-21-1173

E-mail iuhr@city.iida.nagano.jp



単位地域プロジェクト

旧南信濃村役場文書調査

歴史研究所は、2005年に飯田市に合併した旧南信濃村の役場に残された文書の保存、整理作業を続けています。

山間部の歴史の解明に期待

旧南信濃村役場には、明治から合併前までの大量の文書が残されています。これほどの文書の量は類をみません。飯田・下伊那の山間部の歴史はまだ未解明なところがあるため、研究資料として期待されます。旧南信濃村は静岡とのつながり、村の共有山をめぐる王子製紙との訴訟や、財政再建団体に陥ったものそこから離脱したことなど、興味深い歴史を持っています。



地域内外の方々と連携しつつ進めています

今回の調査には、南信濃自治振興センターの職員の方々に協力していただきました。また文書の整理作業には、横浜国立大学、國學院大學、神奈川大学、一橋大学、国際基督教大学の大学院生が参加してくれました。南信濃の老人保健センターで合宿し（夜は自炊で南信濃の名産のラムをいただきました）、自分の取り組んでいる研究のことなどを語り合う交流会となりました。



クレーンを用いての搬入作業

調査の進め方

- 1 文書の保存状態をスケッチします（単位組織現状記録調査）。これによって、どのような種類の文書が保存されているか、どのような状態で保存されているかを記録し、文書群全体の性格をつかみます。
- 2 文書をまとまりごとに箱詰め、ラベリングして、保存場所の基幹集落センター2階に運び込みます。大量にあるため、今回はクレーンを使って2階から搬入する大がかりな作業となりました。
- 3 住民課、総務課など各役場の課ごとの棚に文書を配架します。
- 4 文書ひとつひとつにラベルを貼り、目録を作ります。

11月中に文書の基幹集落センターへの運び込みは終了しました。今後はその整理・目録作りの作業にとりかかります。

参加者の声 坂口正彦さん（國學院大學博士課程）

文書群には、南信濃に生きた人々の思いが凝縮されていました。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。この調査をきっかけの一つとして、先月より当研究所のお手伝いをするようになりました。作業を通じて、歴史と現在、歴史と地域について考えていきたいです。



大量に残る旧南信濃村役場文書

地域史講座 満州移民

『満州移民—飯田下伊那からのメッセージ』（飯田市歴史研究所編）の各章の執筆者が、それぞれの章をわかりやすく解説します。

▼12月8日（土） 満州移民の送出と開拓地の生活

講師：齊藤俊江（調査研究補助員）

▼2008年1月12日（土） 逃避行から引揚げへ

講師：本島和人（調査研究員・伊那西高等学校教諭）

■時間 各回とも14:00～16:00

■会場 歴史研究所

「下伊那歴史懇話会」運営スタッフ募集

市民のみなさんが歴史研究所の諸事業と協働しつつ、地域の歴史に親しみ、地域文化の発展に寄与し、会員相互の親睦をはかることを目的として、下伊那歴史懇話会（仮称）をつくりたい。

ついては会の運営を担っていただくスタッフを募集します。関心のある方は歴史研究所までお問い合わせください。

飯田アカデミア 2007

飯田アカデミアは、大学の専門課程レベルの講座です。毎回歴史学を中心とした専門研究者を講師に、研究の最前線を分かりやすく講義します。

第38講座 12月15日（土）・16日（日）

フランス革命に刻まれた民衆の思い

講師：近江吉明さん（専修大学教授）

フランス革命がめざした理念や、革命期に変革された政治や社会の在り方をめぐる議論は、私達にとっては今でも大きな意味のあることです。しかし、フランス革命史研究は革命200周年以来変化してきました。本講義では、当時の、とりわけ地方の農民や都市民は革命に何を求めたのか、バス・ノルマンディー地方オルヌ県下の農村教区陳情書の内容や都市部の食糧蜂起の動きを克明に追いかけて、その実態に迫ります。具体的な史料を読みながら、フランス革命の読み直しをしてみたいと思います。講義は、①オルヌ県下の農村教区陳情書の読み込み、②県東部の食糧蜂起、③県西部のジャクリー蜂起、④国王ルイ16世の布告と民衆、についてお話しします。

■時間 1日目（土）13:30～17:00

2日目（日）10:00～14:30

※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。

■会場 飯田市上郷考古博物館

■定員 各講座30人

■参加費 資料代として500円（2日間分）

第39講座 1月19日（土）・20日（日）

世界経済の中での農業保護政策

講師：森 建資さん（東京大学教授）

現在、世界貿易機構（WTO）で農産物貿易のルールづくりが進められていますが、先進諸国が自国の農業保護政策をできる限り温存しようとするために、話し合いは容易に進みません。合衆国、ヨーロッパ、日本といった先進国の中で対立があるだけでなく、先進国と後発国の間の対立も顕著です。日本政府内でも、経産省と農水省は考えを異にしています。第二次大戦後、自由貿易が国際貿易の原則になったにもかかわらず、農業がその例外とされたことが、このような複雑な利害対立の背景にあります。この問題を歴史的に考えてみたいと思います。早くに工業化を進めたイギリスを取り上げて、日本と比べてみます。

■申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込みください。

※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記して下さい。

※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います（会費1000円）。

講座「古代の史料を読む」

各時代の特徴ある古典や古文書などの史料を中心に、2回の講座を通じて古代の様相を分かりやすくお話しします。

第1回講座 1月26日（土）

①奈良時代の史料を読む

「仕丁漢人部千代の失踪—正倉院文書の関係史料を読む—」

講師：山口英男（東京大学史料編纂所教授）

②古代の対外関係史料を読む

「中国に渡った麿太子高丘（真如）親王—『頭陀親王入唐略記』を読む—」

講師：田島 公（顧問研究員・東京大学史料編纂所教授）

■時間 各回とも13:30～17:00

■会場 飯田市地域交流センター
（りんご庁舎／本町1-15）3階会議室

■定員 50人（1回のみ聴講も可能です）

■参加費 各回資料代として300円

第2回講座 2月2日（土）

①摂関期の史料を読む

「条事定文写—『平安遺文』を読む—」

講師：加藤友康（東京大学史料編纂所教授）

②院政期の史料を読む

「花園左大臣源有仁の生涯—院政期の儀式関係史料を読む—」

講師：田島 公

■申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで事前に歴史研究所にお申し込みください

※ファクシミリ・Eメールでお申し込みの場合は住所・氏名・電話番号を明記してください。



一緒に学びませんか！

林義章さん（歴研近世史ゼミ）

私は10年程前より、飯田の観光ボランティアガイドの会に入会し、歴史や街づくりの勉強会に出たり、自分なりに調べたりまとめたりしながら、城下町飯田の街中ガイドや、やまびこマーチ時の散策ガイド、また日本一と思われる一本桜の里の桜守りガイドを人生のライフワークとしてやってきました。しかし、近場の下呂や豊橋で行われた全国ボランティアガイドの会(800~1000名出席)に参加し、分科会等で全国の人たちと話をしてみても、自分たちの未熟さを思い知らされ、もっと基本的な事柄から身につけなくてはと思うようになりました。

そんな時ちょうど歴史研究所のゼミが始まり、近世史ゼミと近現代史ゼミを受講し、また毎月のようにあるアカデミア等で学び始めました。その後過密スケジュールのため、近現代史ゼミは「古島敏雄の大正時代」の勉強会と、原彰一先生からのオーラルヒストリーのテープ起こし迄で一時休会し、アカデミアも郷土に関する題材の時だけ出席することにしました。現在は近世史ゼミで、県史の中からこの地方に関係ある題材を選び、活字化された古文書の読みや解釈等を交替で発表しあって、私の場合は楽しく学び、観光ガイドに大いに役立っています。

市民の皆様方と一緒に学びませんか？



図像史料を「よむ」

多和田雅保 研究員・近世史

歴史研究の目的とは何か？ いろいろな答え方があるでしょうが、研究の蓄積を通じて個々の史料の学術的価値を高めていくことも、とても重要な目的ではないでしょうか。

先日やっと、『みるよむまなぶ 飯田・下伊那の歴史』が刊行のはこびとなりました。一連の作業は大変でしたが、微力ながら最大限尽くしたのではないかと思います。このなかで、私が原稿作成を通じて注意したのは次の2点です。まず1点目は、一見なんでもなような図像を素材としてとりあげようということです。歴史情報は有名な絵巻物や国宝級の古文書だけに詰まっているのではない。たとえば地域のみなさんが日々生活するなかで撮影する写真などからも、多くの事実が引き出せることを示したかったのです。2点目は、図像史料の解読にあたっては、さしあたってその図像から得られる情報以外には頼るまいという姿勢です。その情報をギリギリ最大限のところまで引き出した上で、それでもわからない段になって、はじめて文献を読んだり人に聞いたりしたわけです。

これらは文献史料を読むときの態度と全く同じで、歴史研究の基本といえます。それでも図像史料は眺めているだけでも楽しく、飽きないものです。ぜひ多くの方にお読みいただきたいと願っています。

第2期中期計画（案）についてご意見をお寄せください

飯田市歴史研究所は、市誌編さん事業を恒久的な地域史研究事業として位置づけ直し、平成15年12月に開所しました。これまで第1期（平成15年度から19年度まで）の中期計画に基づいて恒久的・継続的に地域の歴史や文化を調査研究し、その成果を現在および未来の市民に還元すべく取り組んできました。

このたび、平成20年度から24年度までの5か年を計画期間とする第2期中期計画（案）をまとめ、1月25日から公表します。皆様のご意見をお寄せください。

■意見の募集期間

1月25日（金）～2月25日（月）

■問い合わせ 飯田市歴史研究所

※寄せられた意見と市の考え方については、後日公表します。

※詳細は『広報いいだ』1月1日号および飯田市のホームページをご覧ください。

歴研ゼミだより

10月・11月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史ゼミ 近世下伊那の民衆生活史	近現代史ゼミ 地域社会史入門－飯田町の記憶を探る－	現代史ゼミ 地域社会とグローバル化
■開催日 隔週火曜日 ■時 間 午後7時～8時40分 ■担 当 多和田雅保(研究員) 10月2日 三井水論(3) 10月16日 下伊那の蚕種販売業(2) 10月30日 柚人の訴え(和合村と平谷村の山論) 11月13日 飯田町町人による山林用益権をめぐって	■開催日 隔週木曜日 ■時 間 午後7時～8時40分 ■担 当 田中雅孝(調査研究員) 10月11日 文献講読『忘れられた日本人』(宮本常一著) 10月25日 胡桃沢健氏の話をお聴く(2) 11月8日 聞き取り調査検討 文献講読:『忘れられた日本人』 11月22日 文献講読:『忘れられた日本人』	■開催日 隔週水曜日 ■時 間 午後7時～8時40分 ■担 当 鬼塚 博(研究員) 10月17日 Class Conflict and Cultural Consensus 8 10月31日 ゼミ新期開講とガイダンス 11月14日 長野県各地域の農家戸数と養蚕農家戸数 11月28日 長野県各地域の人口と戸数

※各ゼミでは随時受講生を受け入れています。ゼミの日程は4頁催事スケジュールをご覧ください。



『みるよむまなぶ 飯田・下伊那の歴史』

飯田・下伊那には、古い時代に描かれた絵図や古写真などの図像史料がたくさん残されています。これらは見た目には美しいだけでなく、深く読み込むことで多くの歴史情報を教えてくれます。本書では、戦国時代から戦後にかけて作成された図像史料を、時代やテーマご

B5判 並製 132頁
定価 1785円 [本体 1700+税]

とに20点選んで紹介します。そして「みる」「よむ」「まなぶ」の3つの段階をふまえて、これらの史料を深く読み込んでいきます。図像の徹底的な分析から浮かび上がる「飯田・下伊那の歴史」を、多くの関連図版を織り交ぜながら分かりやすく描きました。

販売所 歴史研究所、市役所行政資料コーナー、市内書店
※詳細はお問い合わせください。

問い合わせ 飯田市歴史研究所
☎0265-53-4670

歴研日誌

10月

- 2日 鳥根県邑南町会議員による視察／近世史ゼミ／市民大学講座 (講師:齊藤俊江)
- 3・5・24・25日 歴史的建造物調査(鼎・川路・中村・上飯田の本棟造)
- 10～11日 「飯田観光ガイドの会」講演会・町歩き(座光寺)
- 11日 麻績史料館所蔵史料調査／近現代史ゼミ
- 15～17日 群馬県養蚕建築調査
- 16日 旭ヶ丘中学校職場体験実習受け入れ
- 16・19・23・26日・11月2日 松川高校地域史講座「江戸時代下伊那の都市と農村」(講師:多和田雅保)
- 17日 現代史ゼミ
- 20日 満蒙開拓シンポジウム
- 21日 座光寺・今村八東氏所蔵史料借用調査
- 22日 風越高校史料調査
- 25日 近現代史ゼミ
- 26日 文献史料講習会
- 30日 近世史ゼミ

11月

- 1日 風越高校史料調査
- 2日 外部評価報告書を手交
- 3日 近世大坂研究会研究報告(報告者:多和田雅、多和田真理子)
- 4～7日 飯田西中学校生徒体験学習受け入れ
- 6日・13日・20日 松川高校地域史講座「下伊那の近代史」(講師:清水迪夫)
- 7日 松尾自治振興センター史料調査(岩本純明顧問研究員)／定例研究会／松村哲夫さん聞き取り調査
- 8日 麻績史料館所蔵史料調査／旧南信濃村役場文書調査／近現代史ゼミ
- 8・14・15日 歴史的建造物調査(高森町市田宿)
- 9日 座光寺小学校歴史講演会
- 13日 近世史ゼミ
- 14日 現代史ゼミ
- 15日 松川高校職場体験学習受け入れ／「満州移民」風越高校出前講座／熊谷加舟さん聞き取り調査
- 16日 座光寺歴史資料作成委員会出席
- 17日 地域史講座⑥「満州移民①」
- 18日 旧南信濃村役場文書調査
- 19日 市民大学講座(講師:多和田雅保)
- 22日 麻績史料館所蔵史料調査／近現代史ゼミ
- 24～25日 飯田アカデミア第37講座「斉明朝の歴史的意義」(講師:栄原永遠男さん・大阪市立大学教授)
- 27日 近世史ゼミ
- 28日 現代史ゼミ
- 29日 定例研究会
- 29日～12月1日 歴史的建造物調査(南信濃和田宿)

- 継続調査 森本信正氏所蔵史料・北原嘉雄氏所蔵史料・市瀬繁文書・岡田昭夫氏所蔵史料・三穂小学校移管史料・部奈一朗氏所蔵史料

12月・1月の催事スケジュール

12月	2007 2008	1月
土	1	火
日	2	水
月	3	木
火	4	金
水	5	土
木	6	日
金	7	月
土	8	火 近世史ゼミ
日	9	水 現代史ゼミ
月	10	木 近現代史ゼミ
火	11	金
水	12	土 地域史講座満州移民③
木	13	日
金	14	月
土	15	火 アカデミア
日	16	水 アカデミア
月	17	木
火	18	金
水	19	土 アカデミア
木	20	日 アカデミア
金	21	月
土	22	火 近世史ゼミ
日	23	水 現代史ゼミ
月	24	木 近現代史ゼミ
火	25	金
水	26	土 講座「古代の史料を読む」①
木	27	日
金	28	月
土	29	火
日	30	水
月	31	木

開所日 開所時間 午前9時～午後5時
休所日 休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日